

2012年8月13日

京都市長 門川大作様

拝啓

この手紙は、前川國男氏が設計した京都会館について提言されている改修と増設に対して、ICOMOSのISC20C（20世紀遺産に関する国際学術委員会）の懸念を表明するものです。

1960年に京都の岡崎公園に複合文化施設として建設された京都会館は、日本で最も重要な近代建築作品の一つと認識されております。前川氏は、世界的に有名なパリのル・コルビュジェの下で1928年から1930年まで研鑽を積み、近代建築の重要な新たなアイデアを日本へ持ち帰り、それを50年間実践しました。

前川氏は20世紀の最も著名な日本の建築家として広く知られており、京都会館は彼の最も重要な作品の一つです。この事業において彼は、京都が昔から保ち続けている伝統と歴史のある周辺環境に適合させつつ、近代建築のアイデアも盛り込んだ新たな文化施設を作りあげることになりました。京都会館はすばらしい建築作品であり、そして大切に保存されるべき文化遺産でもあります。

ICOMOSのISC20Cでは、京都会館に新たに修復、改修、増設を行う計画に関する提言の内容を調査してきました。その結果、今回の計画は、この極めて重要な建築遺産に取り返しのつかない害を及ぼすのではないかと懸念しております。計画されている新たな劇場の大きさや形状は、元の前川氏設計のコンセプトと細部の工夫によってつくられていた美しさや調和を損なうでしょう。

国際的な行動を求める声に従い、私は2月に個人的に京都会館を見学しました。それ以降、ICOMOSのISC20Cの国際的な専門家と公的ネットワークを活用し、提言されている再開発計画とそれにより建築遺産が受ける影響を調査してきました。外部の専門家を活用することにより、市が行った調査や他の遺産と比較した遺産の価値について、厳正で中立的な立場から評価を行いました。その結果、我々の懸念は確定し、ICOMOSのISC20CからHeritage Alert（遺産警告）を発動することになるだろうとの結論に達しました。

Heritage Alert（遺産警告）は、京都会館の欠くところのない建築美への脅威に対する国際的な注目を集めるとともに、建築遺産を保護するより優れた方策の検討を促すために行うものです。Heritage Alert（遺産警告）は、ISC20Cのウェブサイトに掲載され、ICOMOSのネットワークを通じて配信される予定です。その後も追加情報があれば、更新されることとなります。

京都市が京都会館の現状変更を行う今の計画を再考され、劇場で新たなプログラムを行うためのニーズに適応しつつも、元の建物の建築遺産としての価値を保持することができる、より良い設計案を模索されるよう、謹んでお願いいたします。

敬具

ICOMOSのISC20C（20世紀遺産に関する国際学術委員会）
委員長 シェリダン・バーク